

2022 年度 福祉助成金（活動助成） 成果報告書

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじんそーる	
団体名	特定非営利活動法人そーる	
代表者名	片岡 奈津子	
連絡先	住所	倉敷市真備町 812-16
	TEL	086-697-0823
	E-mail	soul.mabi8@gmail.com
	URL	soulmabi.com
設立年（西暦）	2016 年	
助成活動名	コミュニティ再構築継続プロジェクト 2021 ～担い手育成による地域共生社会の実現に向けて	
助成額	300.000 円	
活動内容	目的	<p>①真備地域におけるソーシャルワークの土台づくり 目的：真備地域全体でソーシャルワークを実践・支援できる体制づくりのための土台を整備すること。必要性：橋本財団の助成で実施してきたエンリッチカフェ等により、被災後の地域コミュニティ再構築は進んでおり、新たに地域においても防災を切り口とした活動への機運が近年高まっている、これらの取組の実効性を高めるためにソーシャルワークの視点が欠かせないため。</p> <p>②ソーシャルワークのネットワークづくり 目的：真備地域におけるソーシャルワークの土台づくりへとつなげることと、岡山県内のソーシャルワークネットワークを広げること。必要性：ソーシャルワークを展開している団体・事業者は県内に点在しているが、つながりは薄くそーるにおいても活動を広げていくためのノウハウや仲間が不足しているため。</p> <p>③ホームホスピスの開設準備 目的：ホームホスピスへの理解を拡げ、地域に開かれたソーシャルワークの拠点施設としていくため。必要性：ホームホスピスの社会的な認知度は低く、そーるにおけるホームホスピスをソーシャルワークの拠点とするためには、地域の理解と協力が必要となるため。</p>
	内容	<p>①エンリッチカフェ・防災ばぁの運営（各 30 名・毎月）、参加者及び職員に向けた専門家による研修・WS の実施、ソーシャルワーク実践者の育成</p> <p>②年 2 回、事例紹介・意見交換、5 団体・住民 30 名</p> <p>③11 月、真備及び周辺の福祉関係者及び住民向け、参加 100 名程度</p>
	成果	<p>これまでの橋本財団の助成により実施している、エンリッチカフェ・防災ばぁは地域に定着しており、その参加者やお世話役の人が自主的な地域活動として参加者が次回にはスタッフとして活動を行う。そのことが続いており、回を重ねるごとにより充実したものとなっていった。ある参加者は、人に言えない悩みを抱えていたが、こんなに近所に周りに助けてくれる人がいたことに涙を出し喜んでいた。今回の助成金による活動を実施することが、目的とするソーシャルワークの土台を作る基礎は構築された。やはりコロナ禍の中の活動となったため、様々な制約の中でも地域活動が開催できた。今後も続けることで地域全体に広がるのが期待される。そーるの参加者は真備地域だけに関わらず、県内・県外の多くの方々の応援を頂いた。今後も開催することで真備と県内他地域とのネットワークを活かした特色に応じたソーシャルワークの展開が見込まれる。また地域に「自分たちしかない」などの孤独感を払拭することでより大きな安心が望まれる。今後そーるにおいてはホームホスピス事業を開設することを計画しており、公的支援制度の対象とならない方を受け入れる家となるとともに、地域が創る地域のための地域に開かれたソーシャルワークの拠点としての役割を担うことを目的とし進めていく予定である。そのために</p>

は、周辺地域の福祉関係者及び住民の理解と協力、地域内での周知が必須となる。その一環としてスタッフの専門性の向上は当然だが、ホームホスピスは公的制度ではないため、公的な財政支援がないこともあり、様々な連携が必要とされることが今後開設に向けた大きな課題となっている。助成金による活動と地域との連携、実質的な財務状況を見据えることが必要となるが、より高齢化、過疎化の進行が懸念される。あらゆる面からも考えられる開設のタイミングを検討しこの町における福祉事業の未来の課題を解決するべく動くことが大切とされる。そのためにも今後も基礎とされるコミュニティの構築が重要とされる。

今後の課題と対応策

成果にも記したが、継続的なコミュニティの構築は引き続き継続していきたい。またその中から次の担い手や新しいリーダーの育成にも力を入れたい。こちらはホームホスピス事業のことを考えると地域活動のみでは解決できない面もあり、より福祉事業の面についても勉強していきたい。また今まで多くの方々に応援いただいた災害からの復興についてもまだまだのところがある。復興と福祉を同じように盛り上げている地域もあるため、今後は現地視察なども視野に入れ、多角度からのソーシャルワークのコミュニティの構築について考えていきたい。あとは今までの経緯を記録とし、多くの場所に発信するべく対応も検討する。



写真の提出



